留学体験感想文

ご自身の体験談をご自由に書いてください

私は16才の夏休みの1カ月、カナダ・バンクーバーに留学しました。16才という年齢だからこそ、学ぶもの、見るもの、すべてが新鮮でした。留学の間は母からの連絡を一切断ちきって"1人で頑張る"と決めて空港で別れを告げ出発しました。異国の地でたった1人の高校生がたずねたのは、とても温かいファミリーのお家でした。食事の時間には音楽を流し、近所の人が集まってみんなでわいわい食事をしたり、また私をどんどん歓迎してくれる姿を見て、私もこの人達と陽気に自分をアピールできる人になってみたい…!!と語学の勉強を頑張りました。まずは学校での授業を楽しもう!!そう決めて毎朝の早起きから気分を盛りあげ、通学中のバスや道で出会う人とのあいさつまで楽しみました。学校ではフレンドリーな先生が個人個人の良さを理解し、認めてくれる方ばかりで、自分が英語を使って"考えを発信する"のにどんどん抵抗はなくなり、さらにはそれが自信になっていきました。語学の壁であるものにもぶつかったことがありましたが、いつも温かいファミリーのことを思いだせば、私は幸せなのだからネガティブになってちゃいけないと思い、とにかく明日が来るのが楽しみという気持ちを大切にしました。母と別れを告げるときは"1人で"と決めていましたが、たくさんの人が私に"幸せ"に生きることを教えてくれました。語学は簡単ではないですが、私はもっともっと勉強して、彼らが、いつかこいつが帰ることを思って頑張ります。彼らとの思い出はたくさんありますが、花火大会を見たり、その時には私の使っていたゆかたをホストシスターに着せてあげたり、また豪華なレストランに連れていってくれたり、和食を一緒に作ったり、ゾンビフェスティバルに参加したり…まだまだたくさんの思い出があります。印象的だったのは、折り紙を日本からたくさん持参して、ホストブラザー、ホストシスター、そして近所の彼らの友人が集まってとびついて来てくれたのに、私が折り方を忘れ、何も教えてあげられなかったことです。(笑)でも代わりに彼らがクリームシチューを作ってごちそうしてくれたり、トランプのおもしろい遊びを紹介してくれました。別れの日には、ピックアップの業者が予定時刻より30分も早く到着したため、あわてて出発しなければなりませんでした。ホストマザーとホストファザーが私の部屋のケースを力いっぱい確かめるとともに、そこに入っていた2つの花束とレターを見つけ涙を流してハグをしてくれました。彼らに対する"ありがとう"が伝わったことがうれしかったです。

最後にこの留学をサポートして下さったジールズのみなさんにありがとうございました。"

ご協力ありがとうございました

留学支援・サポートセンター ジールズ